

機器説明



警報ユニット【AL-TypeB】

ワイヤーセンサや伸縮計、雨量データ集録装置からの警報信号で回転灯やサイレンを駆動。警報を連続出力、または30秒～6時間までの間で解除できる機能も備えています。

- 入力信号：2点（無電圧A接点及びB接点）
- 警報出力：AC100V（10A）、DC12V（10A）、無電圧接点（10A）
- 警報出力時間：連続、30秒、1分、2分、5分、10分、30分、1時間、6時間
- 電源：AC100V及びDC12V



雨量発信器【RS-2】

降雨量に応じた雨量パルスを出力。雨量データ集録装置とセットで使用します。

- 検出方式：転倒マス式
- 出力信号：無電圧メーク接点出力（主/副 2接点）
- 測定単位：0.5mm/1転倒



雨量データ集録装置【NetLG-201】

雨量発信器と接続して降雨量を記録。ネットワークコントローラを接続して過去の記録データを確認したり、CFカードセットを介してデータを回収し、パソコン処理できます。

- 時間雨量・日雨量・連続雨量・経時雨量・実行雨量等で警報判定を行います。
- 記録期間：7620mm
- 電源：リチウム電池CR123A 1本またはDC12V



グラフ付伸縮計【SLG-100】

地表面亀裂や土塊の移動量を記録・監視。警報ユニットに接続して警報を発報します。

- 測定範囲：0～1000mm
- 電源：リチウム電池CR123A メイン1本・サブ1本
- 表示：0.1mm分解能で数値及び時系列グラフ表示
- 警報接点：無電圧接点A接点またはB接点出力



パケット通信機【NetMAIL-1】

様々な現場に最適なシステムが構築出来るよう、警報機能・ネットワーク機能をより一層向上させたデータ通信機です。

- 使用通信網：au PacketOne
- 電源：外部電源DC10～15V
- 観測インターバル：5分～1日



ワイヤーセンサ

落石や土石流発生箇所ワイヤーを張り、そのワイヤーが土石流等により切断される現象を電氣的に検出。警報ユニットに接続して使用します。



回転灯

異常発生を回転灯で警告。警報ユニットに接続して使用します。

- 定格電圧：AC100V用またはDC12V用



電子ホーン

異常発生を電子ホーンのアラーム音で警告。警報ユニットに接続して使用します。

- 定格電圧：AC100V用またはDC12V用



モーターサイレン

異常発生をモーターサイレン音で警告。警報ユニットに接続して使用します。

- 定格電圧：AC100V
- 容量：100W

斜面崩壊・土石流災害のための

労働災害防止安全システム

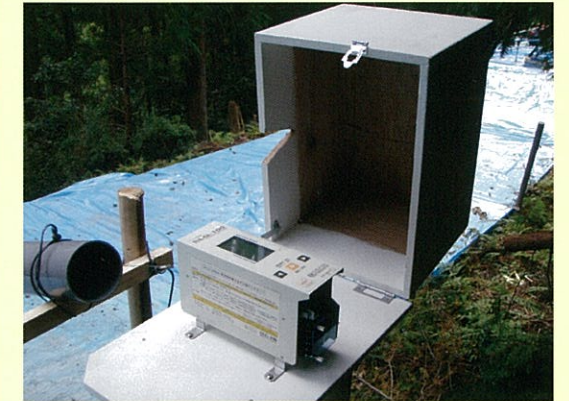
土石流発生源



ワイヤーセンサ



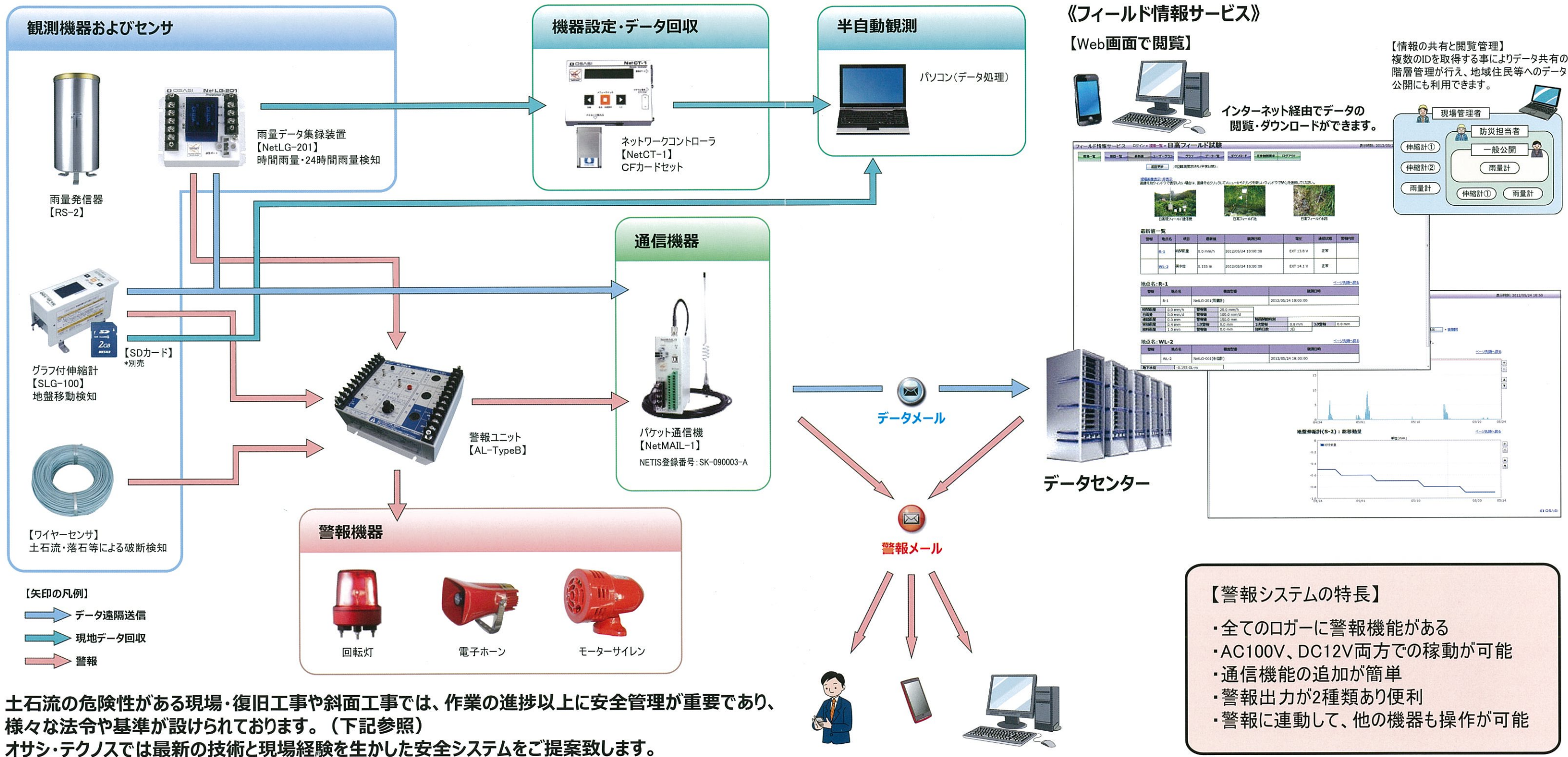
崩壊発生地点



施工現場



オサシ・テクノスの安全システムは、労働災害を防止するために開発されました。



土石流の危険性がある現場・復旧工事や斜面工事では、作業の進捗以上に安全管理が重要であり、様々な法令や基準が設けられております。(下記参照)
オサシ・テクノスでは最新の技術と現場経験を生かした安全システムをご提案致します。

第12章 土石流による危険の防止
(土石流による労働災害の防止に関する規程)
第575条の10 事業者は、土石流危険河川において建設工事の作業を行うときは、あらかじめ、土石流による労働災害の防止に関する規程を定めなければならない。
(把握及び記録)
第575条の11 事業者は、土石流危険河川において建設工事の作業を行うときは、作業開始時においては当該作業開始前24時間における降雨量を、作業開始後においては1時間ごとの降雨量を、それぞれ雨量計による測定その他の方法により把握し、かつ、記録しておかなければならない。

検知機器場所の選定にあたっては、以下の点に留意すること。

- 河川の状況に応じ、支川において発生・流下してくる土石流も監視できること。
- 土石流を検知できる位置から作業場所までの距離を地質・河床勾配等に応じて想定される土石流の流下速度(5~20m/s)で除して得られる時間内にすべての労働者を避難させることができること。

※「土石流による労働災害防止のためのガイドライン」の解説より抜粋
参考：土石流の流下速度5~20m/s ≒ 18~72km/h

※建設業労働災害防止協会発行「改正労働安全衛生規則(土石流労働災害防止関係)」より抜粋